

(様式4)

令和3年度 学会・学術に関する委員会事業報告

1. 活動テーマ

第10回日本公衆衛生看護学会学術集会における全国保健師長会特別企画（ワークショップ）の実施及び企画委員・実行委員としての参画

2. 目的

地域保健で働く保健師が調査研究やまとめを報告する場所を確保し、公衆衛生看護の専門職として自己研鑽や資質向上を図る

3. 実施状況

回	時 期	場 所	内 容
1	令和3年6月15日	大阪市役所	【打ち合わせ：※幹事のみ】 ・ワークショップのテーマおよび内容の検討
2	令和3年6月17日	メール会議	【第1回委員会】 ・委員会の活動及びタイムスケジュールの検討 ・ワークショップのテーマおよび内容の検討
3	令和3年7月1日	大阪市役所	【打ち合わせ：幹事※のみ】 ・ワークショップの内容、講師の検討 ・今後のスケジュールの確認
4	令和3年8月26日	メール会議	【第2回委員会】 ・ワークショップの企画案および今後のスケジュールの検討
5	令和3年10月22日	大阪市 西区役所	【打ち合わせ：幹事※のみ】 ・今後のスケジュールの確認 ・役割分担
6	令和3年11月13日	web 会議	【第3回委員会】 ・ワークショップ当日の流れ、役割分担確認 ・講師との打ち合わせ
7	令和3年11月30日	大阪市 西区役所	【打ち合わせ：幹事※のみ】 ・オンライン接続サポート業者との打ち合わせ
8	令和3年12月18日	web 会議	【第4回委員会】 ・ワークショップ当日の運営確認 ・講師との打ち合わせ
9	令和4年1月8日	web 会議	【第5回委員会】 ・ワークショップの進行確認 【ワークショップの運営】 【ワークショップの振り返り】

※幹事（福永、菅野、芦達）で検討

4. 結果・課題

第10回日本公衆衛生看護学会学術集会は昨年度に引き続きオンラインでの開催となり、全国保健師長会特別企画（第7回）として「地域に責任を持つ保健師活動～モチベーションを引き出す管理期保健師の役割～」をテーマにワークショップを開催した。

東大阪市と大分県からの実践報告および岡山県立大学保健福祉学部森永教授の講義動画を事前配信し、ワークショップ当日は事前配信した動画を視聴してもらった後に、各講師による補足説明とライブでの意見交換を行った。

実践報告では、コロナ業務に忙殺され本来業務ができない焦りもある中、進捗の確認や声かけ、日頃からの人間関係や職場環境づくりがとても大切であることや、保健所と市町村の連携による実務者レベルでの人材育成の仕組みづくりについて報告があった。講師からは、後輩のモチベーションを引き出すために、自己効力感を育てる声かけの工夫や経験学習の活用、指示するだけでなく任せて支えて力量形成をしていくこと、管理期保健師自身のセルフ・モチベーションマネジメントの大切さなどのご講義をいただいた。

ワークショップの参加者は82名で、アンケート回答者（26名：32%）全員が今回のワークショップは『役に立つ』と回答しており、「現場の実践報告が聞けて参考になった。」「コロナ禍で新人期研修も中止となったが、人材育成は方法を変えてでも継続的に取り組まなければならないと感じた。また、人材育成を行いながら管理期の保健師も共に成長する意識をもっていきたい。」「仕事の成果等について声かけをしてきたことが、職場のモチベーションに繋がるということを確認でき、自分のモチベーションも上向きになった」などの感想を得た。

実践報告していただいた自治体の保健師や講師の先生のご協力により、現場で役に立つ充実した内容であったと考えるが、オンライン集会で十分に意見交換を行うことは難しく、今後の課題といえる。

5. 支部活動の特徴

コロナ禍での活動であったため、委員会web会議の前に学術集会の開催地である大阪市の委員（幹事）で集まって打ち合わせを行い、会議記録を事前に送付することで効率的に会議をすすめることができた。

6. 委員・支部長

○福 永 淑 江	大阪市西区保健福祉センター保健福祉課担当係長
石 堂 双 葉	大阪府健康医療部健康医療総務課保健所・事業推進グループ主査
菅 野 恵 美	大阪市鶴見区保健福祉センター保健福祉課保健副主幹
芦 達 麻衣子	大阪市生野区保健福祉センター保健福祉課担当係長
高 橋 み ね	宮城県保健福祉部保健福祉総務課総括技術補佐（人材育成担当） 兼医療人材対策室総括技術補佐